

排除型社会の進展下における 高校教育のミッションと 再編の方向性

古賀 正義
(中央大学)

m-koga@tamacc.chuo-u.ac.jp

今後の高校教育の在り方に関するヒアリング
(2011.01.27)

意見発表

1. 深刻化する「社会的排除」と保険化する学歴
2. 卒業後追跡調査にみる「社会参加・自立」の困難
3. 「市民性教育」のカリキュラム化と評価の試行
4. 各高校のミッションの見える化と組織経営の改編
5. 生徒の「自分づくり」を可能にする社会資源の提供へ

1. 深刻化する「社会的排除」と保険化する学歴

子ども・若者ビジョン(2010.0723決定)

子ども・若者の成長を応援し、
一人ひとりを包摂する社会を目指して

「**困難を有する子ども・若者やその家族を支援する**」
子ども・若者育成支援推進法の方向性を鮮明に

脱・排除型社会という目標 = **学校教育の社会的基盤**

「社会的排除」

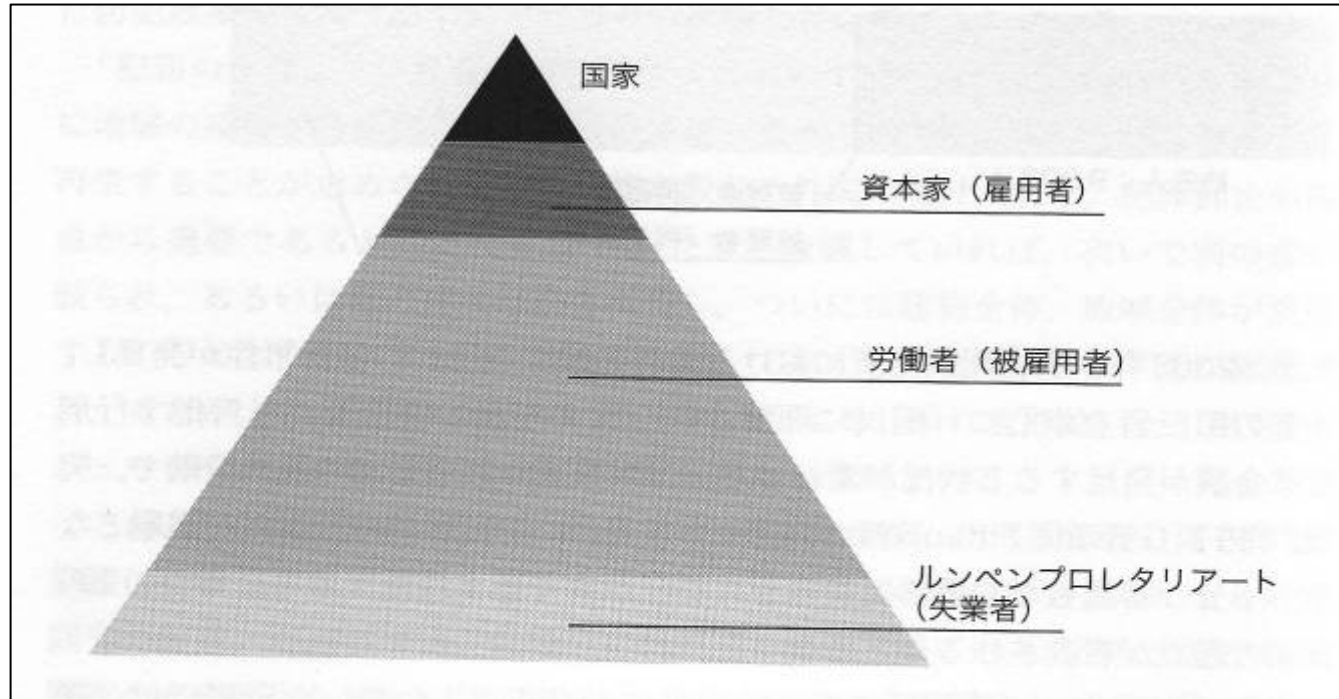
エクスクルージョン

1980年代から欧米諸国で脱工業化やグローバリゼーションの結果として、

「社会から隔絶され社会に参加できない人々の存在」が社会問題化したことにより広まった政策的な概念

脆弱な家族の基盤を伴って、コミュニティに参入できず、就労・就学機会を奪われた今日の若者はその代表例

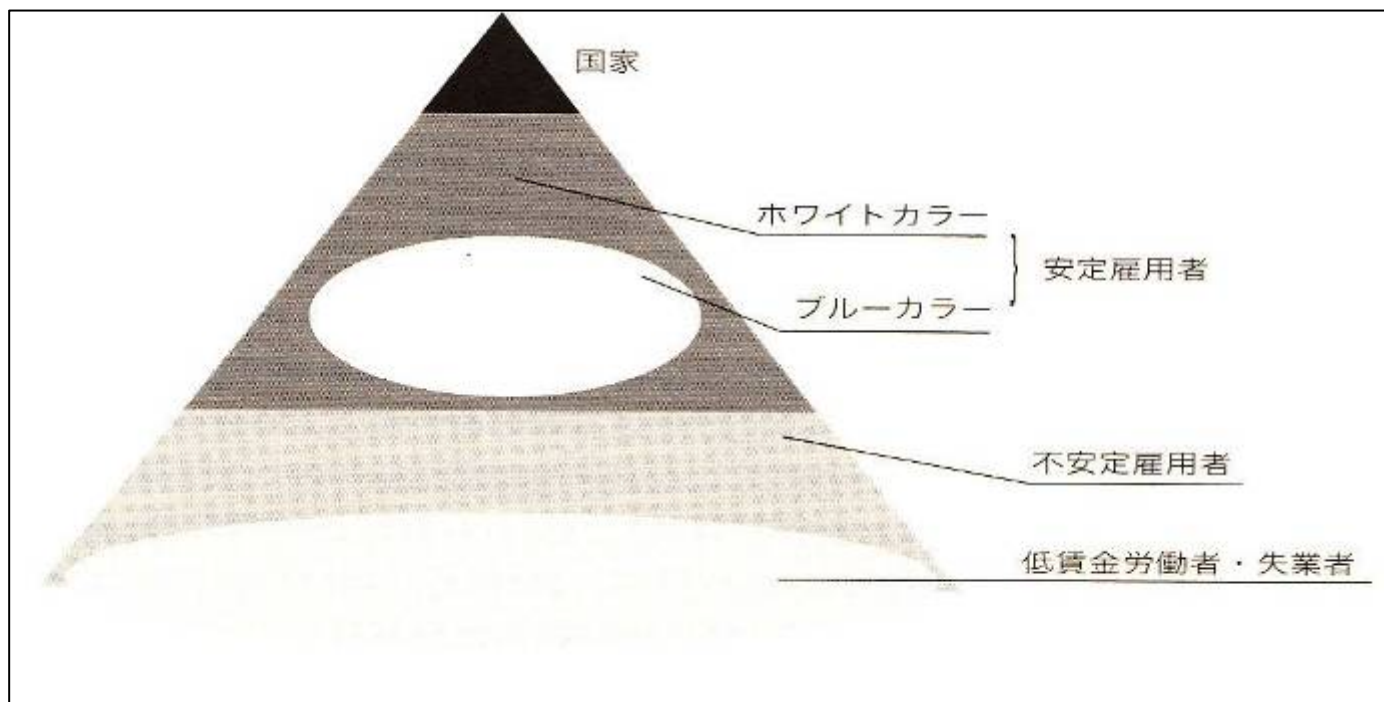
従来の包摂型社会の対立構図



トリクルダウンを生む豊かな階層と多数の安定した中流層

(ヤング, J. 1999/2007 『排除型社会』)

新たな排除型社会の対立構図



マクドナルド・プロレタリアートの登場 「文鎮型」の社会
少数のトップエリートと多数の不安定労働者という構図

(ヤング, J.1999/2007 『排除型社会』)

「社会的排除」と従来の社会問題認識との 違い

- 1) 多面的で複合的な「不利益」の理解
いろいろな問題は相互に重なりあっており、
問題の原因と結果とは表裏の関係にある(脱原因探し)
- 2) 地域コミュニティ資源の「利用不可能」が最も問題
個人の持ち分の不足だけが問題ではない(脱個人化)
- 3) 人生の進行に伴う「不利」の感覚の醸成・深化
ライフコースの展開によって問題が拡大(向タイミング)
(Room,G.1995)

社会的排除が生むもの

1) それぞれの問題には共通した要素や条件が潜む

「格差の内容に踏みいってみると、類似性の多いことに驚かされる…例えば、学歴等の人的資本の不足、住宅等の生活基盤の脆弱性、未婚離婚の多さ、家族形成の弱さ、社会制度からの脱落……」

排除とは、「問題を語る共通言語」である

「一つの問題理解」「特定の原因探し」だけをしていても、現状は改善されないのでは？（岩田正美2009）

2) 問題から生じる困難の回避を一個人のみに求めることはできない

「個の尊厳や存在に関わる排除という考え方の登場も私事化の動向と無関係ではない…

人々の緊密な結合を崩壊させ、バラバラな個人がさまざまな被害や危険を引き受けることによって問題を増幅させ深刻化させていく」

排除=リスクヘッジ(危険回避)の個人化を促進

「問題を解消する」のは、本人の努力によるだけなのか？
(森田洋司2009)

3) 問題は時間とともに変化していき、一時点では部分的な排除であることが大部分である

「すべての指標で排除を示した人はおらず、アンダークラスというような固定層は多くの調査から見出しにくい…

排除は一時的であるが、逆に長期にまったく排除されていない人の比率も減っていく」

排除=時間と空間の力学(タイミング)から生成

リスクは常にあるとして、「滑り台」を転げていくのは
どんな人なのか？ (岩田正美2009)

「リスク社会」への不安の亢進 = 体感する安心の喪失

予測することも保障することも不可能な
社会的リスクの出現

液状化する未来の感覚

= 人生の一定のシナリオや順序性が失われ
る思い、絶えず困難に巻き込まれる感覚
(ベック, U. 『危険社会』)

事例提示：ひきこもり青年の調査

発表者が検討会委員として調査に参加した東京都青少年・治安対策本部

「実態調査からみたひきこもる若者のこころ」「ひきこもる若者たちと家族の悩み」

http://www.seisyounen-chian.metro.tokyo.jp/seisyounen/14_09pdf.html#01

主な調査結果 1) - 5) からみえること

社会的ひきこもりは精神的な疾患だけを原因とするのではないと論じ、その問題性や家庭背景に言及

1) 家族が見た本人の特徴:

「自分の生活のことで人から干渉されたくない」(72%)
が最もよく訴えることであり、行動の特性(複数回答)
としては、「集団に溶け込めない」(81%)、「昼夜逆
転の生活」(56%)、「人に会うのを怖がる」(49%)が
ベスト3であった。

いわゆる社会性の不足や不安、とりわけ神経症的な
対人関係の排除の傾向が回答された。

2) ひきこもり経験:

約半数(53%)の家庭が、ひきこもり支援団体に通って相談し始めてから「3年以上」になり、「10年以上」も約1割いて、長期化している。

ひきこもりの直接のきっかけ(単一回答)として、「人間関係(主に家族と友人)の不信」が45%、次いで「不登校」29%、「大学への不適應」16%となっている。「高校や大学の受験の失敗」も12%あった。

だが、通例予想されるほどには、不登校が直接の契機としてあげられていない。

3) 幼少期の学習経験:

「スポーツクラブなどのトレーニング」に子どもを通わせた経験がある家庭は半数強(56%)。次いで、「絵画や音楽の才能を伸ばす教育」が33%、「私立学校(幼・小・中)の受験」が28%と続いている。

世代的にみれば、東京都の事例とはいえ、私学受験率は思いのほか高い数値とみられる。

4) ひきこもり状態開始後にした経験:

「家事や家業の手伝い」が51%と最も多く、
次いで「就労(アルバイトを含む)」が39%、
「就学(専門学校、通信制を含む)」が25%となっ
ている。

再び就学・就労と公的組織の参加へと向かうことが
多かった点は、重要である。

5) 家庭の階層:

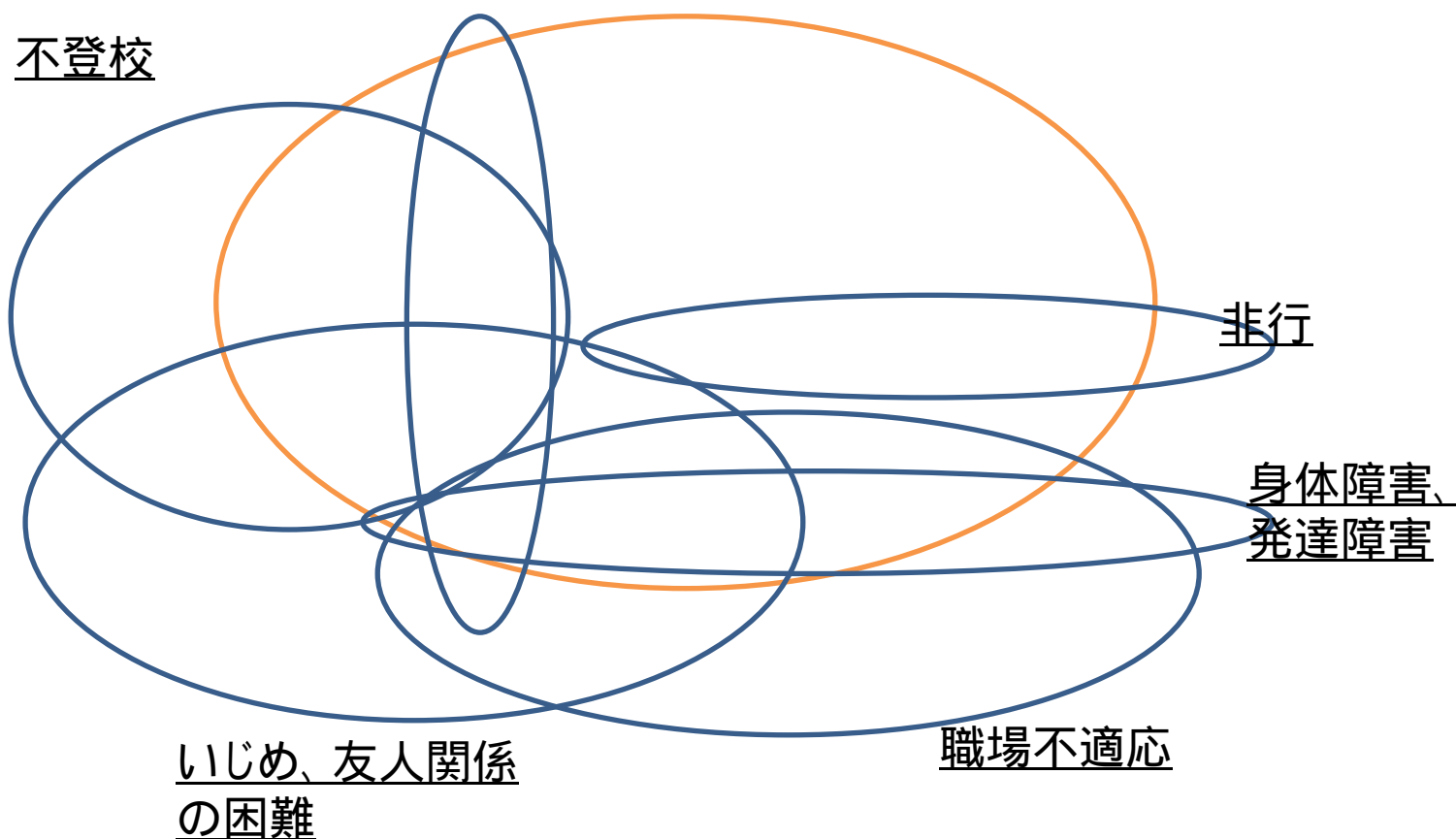
年収600万円以上の家庭が半数を占めるものの、
年金生活などで年収400万円未満の家族が30%に
のぼる。

現職が専門・管理的仕事である親御さんが46%に
のぼるが、ほかの約半数が事務・販売・労務・保安
などに従事している。

比較的高い階層が多いとみられるが、ひきこもりが
長期化すると困窮する可能性が潜んでいる。

「社会的ひきこもり」の事例にみる問題の複合性

受験、就職の失敗 19事例の家族聞き取り結果から



家族に押し掛かる「教育への責任」

過失感と支援の狭間で

- 家族は「ちょっとおかしい」と思いながらも、毎年試験を受験しては不合格になるので、受験予備校などへの参加を勧めるが、断られるだけだった。「受験の失敗」を克服できないまま、公務員を受け続け、ある年にはせっかく1次が受かって2次の「面接」で落とされることもあった。「自信をなくしてしまった」と母親には思えた。
- 親への甘えや怠けなのか、あるいは社会が怖いのかと困惑してしまう。時に「人間が怖い」のかと心配になるが、よその人に会えば挨拶もできるし、そこまでではないように思う。だが、もしかするといまは「楽な暮らし方」と思っているのかもしれないと、疑う時もある。

ひきこもり関係相談機関のネットワーク化

1st step

最初に知ろう

ひきこもりって？

ひきこもりとは、さまざまな要因によって社会的な参加の場がせばまり、就労や就学などの自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態のことをさします。

ひきこもりの実態はさまざま

自宅から一歩も外に出ることができない人、近所のお店などには行ける人、ひきこもり始めて数週間の人、数年間ひきこもっている人、10代の思春期の人や20代、30代の人などひきこもりの実態はさまざまです。そのため、必要な支援も一人ひとり異なります。

原因探しは無意味

「いじめのせい」、「家族のせい」、「性格のせい」など、ひとつの原因で生じるわけではありません。本人やまわりのせいにしても問題は解決しません。

適切な支援が大切

ひとりて悩んでいたり、家族だけで何とかしようとしてもうまくいかないときは、思い切って専門家に相談することが大切です。

思い切って相談してみよう

都内の関係相談機関の電話連絡先

思春期・青年期のこころの問題の相談…

保健所（最寄りの保健所にお電話ください。）

精神保健福祉センター

●東京都立中部総合精神保健福祉センター（区部西部）

TEL 03-3302-7711

●東京都立精神保健福祉センター（区部東部）

TEL 03-3842-0946

●東京都立多摩総合精神保健福祉センター（多摩地域）

TEL 042-371-5560

☎9:00～17:00（月～金）【年末年始・祝日を除く】



子どもの発達やこころの問題、親の悩みの相談…

東京都立小児総合医療センター こころの電話相談室

TEL 042-312-8119

☎9:30～11:30、13:00～16:30（月～金）【年末年始・祝日を除く】

児童期・思春期の教育相談やいじめ・不登校、高校進級・進路・入学相談など…

東京都教育相談センター

TEL 03-5800-8008

☎9:00～21:00（月～金）、9:00～17:00（土日祝日）【年末年始・通行日を除く】

※お住まいの区市町村によっては、教育センターや教育相談室などでも、相談を受け付けています。

18歳未満の子どもの養育・しつけ・不登校・発達などの相談…

東京都児童相談センター電話相談室

TEL 03-3202-4152

☎9:00～20:30（月～金）、9:00～17:00（土日祝日）【年末年始を除く】

※お住まいの地域の児童相談所や子ども家庭支援センターでも、相談を受け付けています。

子どもの非行や犯罪の被害などの相談…

ヤングテレホンコーナー（養育庁少年相談室）

TEL 03-3580-4970

☎8:30～20:00（月～金）、8:30～17:00（土日祝日）【年末年始を除く】

※お住まいの地域の少年センターでも、相談を受け付けています。

高校を中途退学したときの進路相談…

青少年リスタートプレイス（東京都教育相談センター内）

TEL 03-5800-8008

☎9:00～21:00（月～金）、9:00～17:00（土日祝日）【年末年始・通行日を除く】

やりたい仕事や就労活動の方法の相談…

若者しごとホットライン（東京しごとセンター ヤングコーナー）

TEL 03-3511-4510

☎10:00～19:00（平日）、10:00～16:00（土）【年末年始・祝日を除く】

東京都 青少年・治安対策本部 青少年課

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

電話 03-6388-2257

100
12277

ひきこもり サポートネット 東京都



メール相談

QRコードはQRコード読み取り専用アプリをダウンロードしてご利用ください。

◆パソコンから相談する場合

<http://www.hikikomori-tokyo.jp/>

◆携帯電話から相談する場合

<http://www.hikikomori-tokyo.jp/m/>

（相談への返信には、10日程度かかる場合があります。）

電話相談

042-329-6677

受付時間：月～金 午前10時～午後5時

（年末年始【12月29日～1月3日】・祝日を除く）

相談は無料です。

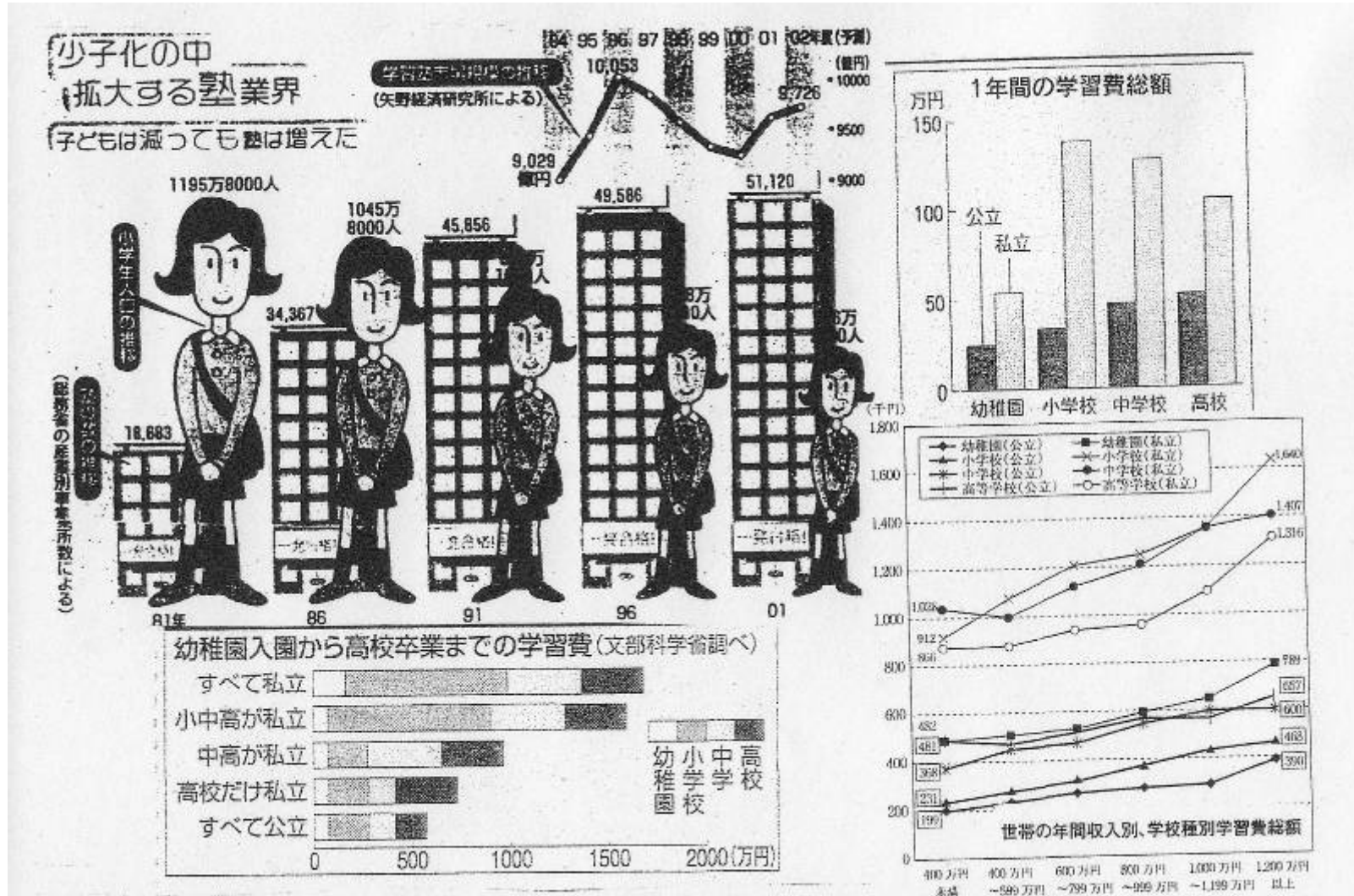
ただし、ご利用に伴う通信費や電話代などは相談者の負担となります。

保険としての学歴

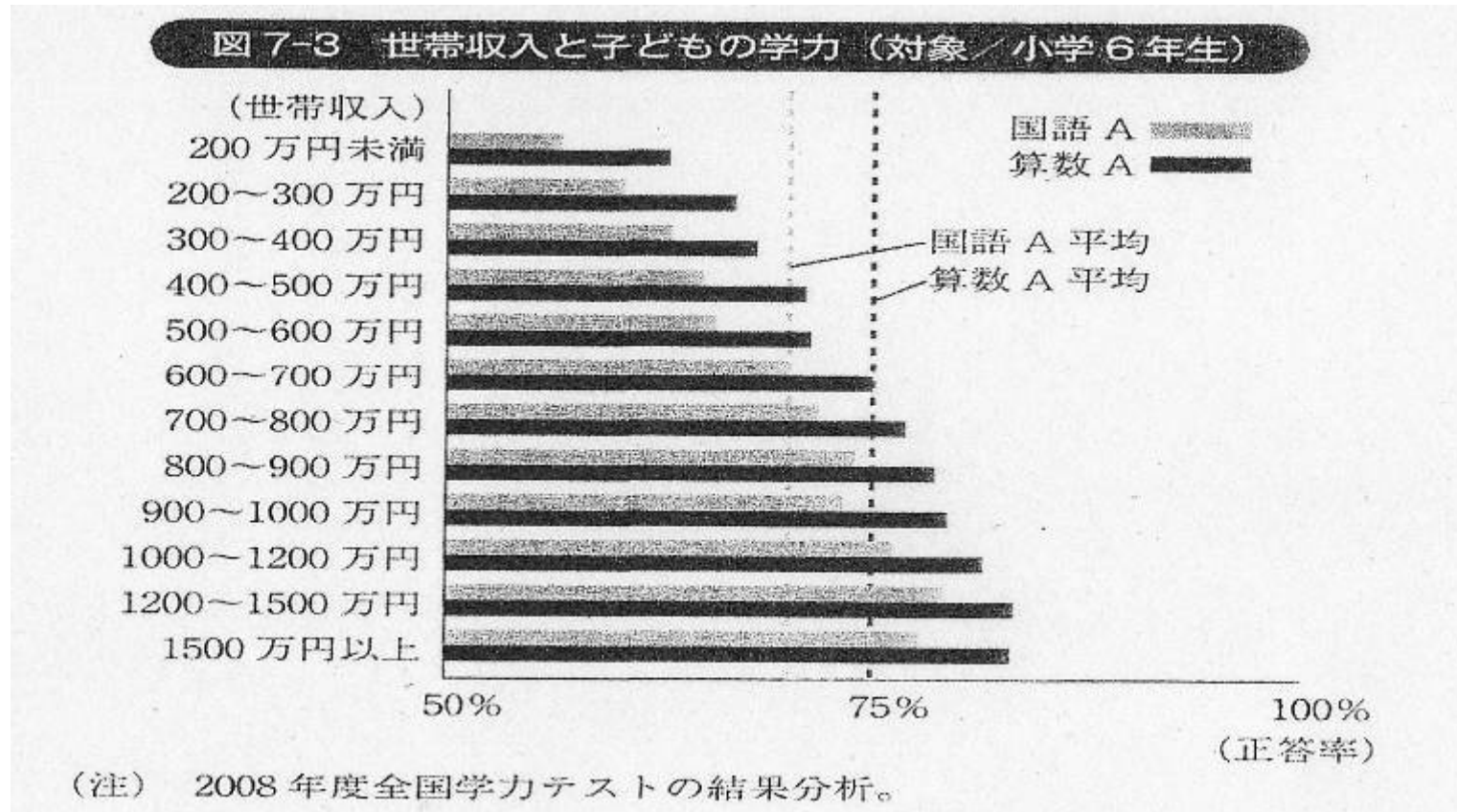
良くならないとしても悪くならないために保険をかける
リスク回避の気分

学歴・学校歴獲得の新たな指向性
(立身出世主義からの離脱)

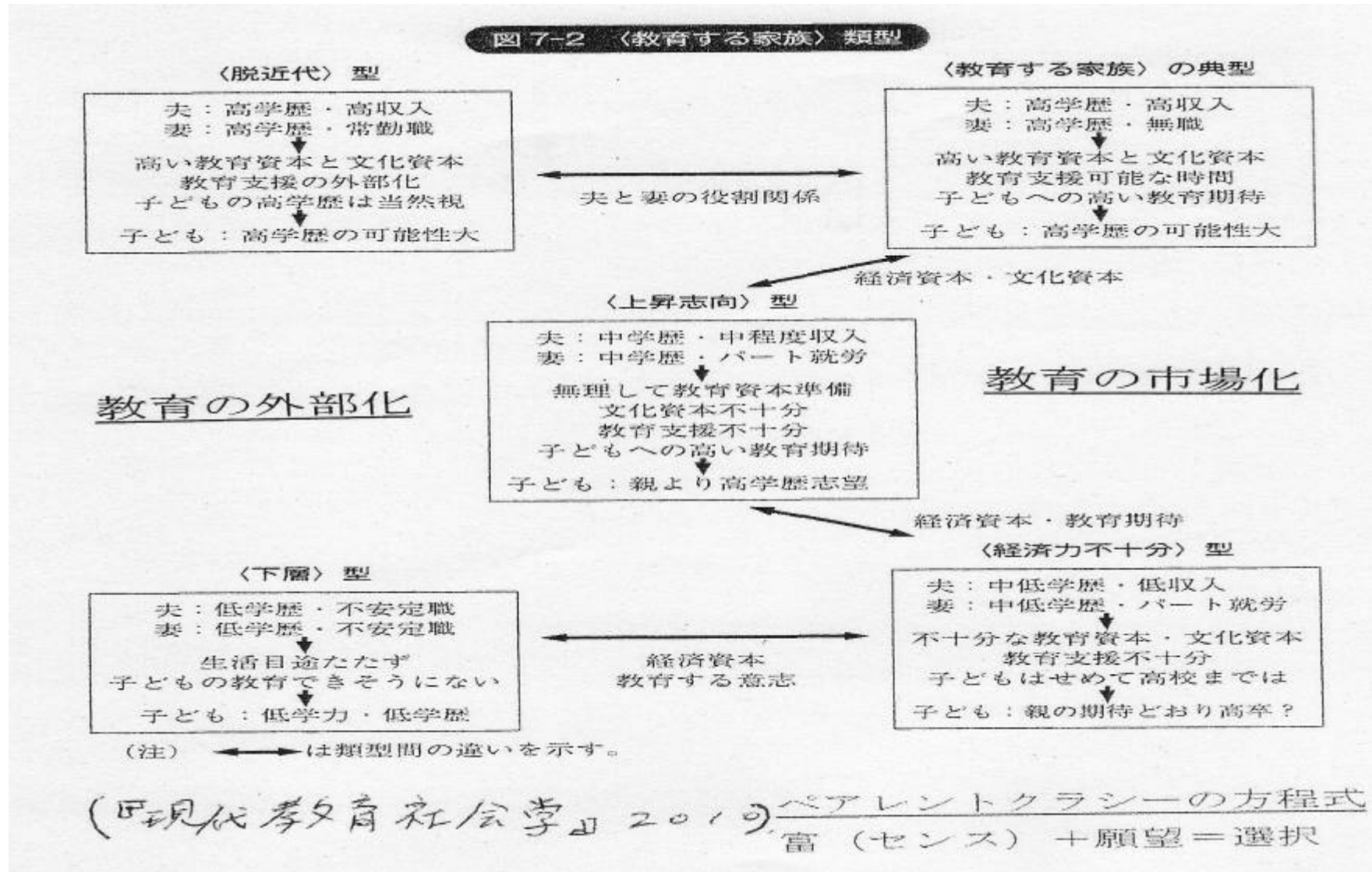
教育の外部化・市場化の促進



教育の外部化(投資)の強まりと格差



ペアレントクラシー(親中心主義)の拡大



メリトクラシーから 「ハイパーメリトクラシー」を求められる時代へ

表 20.1 企業の新規採用、管理の質、象徴的統制コードの変化

	行為のコード	
	官僚制的パラダイム	柔軟なパラダイム
選抜	脱人格化	人格化
社会化	規則遵守 (地位)間	交渉による規則作り (人格)間
認知形式	官僚制的パーソナリティ	<u>カリスマ的パーソナリティ</u>
役割遂行	個人の課題	チームワークとプロジェクトの管理
社会統制様式	非人格的	人格化
ヒエラルキー	明示されたルール	暗黙のルール
リーダーシップの形態	明示的かつ大きい	暗黙かつ小さい
権威	命令と統制	促進と権限
昇進	位置と社会的地位	リーダーシップと貢献
	明示的な達成基準	暗黙の達成基準
企業文化	年功	貢献と人格的な適合性
	弱い	強い

採用戦略において学卒者を雇用する者は柔軟なパラダイムというディスコースを採用しており、本稿において官僚制的パラダイムと柔軟なパラダイムとを区別して使うのは、その方法を反映させようとしたからである。特に学卒者を雇用する者は、「官僚制的」パーソナリティをもつ志望者よりも、むしろ「カリスマ的」パーソナリティを持つ志望者を求める傾向が強くなっている(表 20.1)。

(Brown, P. W)

家庭の文化資本が影響する 「コミュニケーション能力」などハイパーメリットの獲得

また、子どもから若者へと一歩近づいた段階にある高校生の中では、「ポスト近代型能力」の一構成要素としての「対人能力」の重要化という形で、ハイパー・メリットクラシー化の兆候を見出すことができる。若者の中では「対人能力」が全体的に低下しつつあるというよりも、一方には高度の「対人能力」を身につけた者が現れ、他方ではそうした「対人能力」水準の高度化の中でその低さが際立ってしまうような者が現れることにより、格差が拡大している。「対人能力」は「近代型能力」としての「学力」と大まかには相関しているが、「学力」は高いけれども「対人能力」が低い者も歴然と存在している。そうした層に固有の問題は、「対人能力」の低さが「進路不安」の高さと結びついており、それに対して「学力」の高さは補償的な働きをもちえないということにある。彼らは、「学力」の高さから教育システムの中では生き延びることができても、社会への出口に達した時につまずいてしまう危険性ははらんでいる(第三章)。

実際に、教育システムを離れて外の社会に足を踏み出した若者について、いかなる「能力」(ライフスキル)が多面的な「社会的地位」の達成に寄与しているかどうかを検討すると、たとえば「正社員」という「社会的地位」については学歴や「学力」という「近代型能力」の方が強い効力をもっているが、収入や家庭面・意識面での「社会的地位」にまで視野を広げると、「コミュニケーションスキル」や「ポジティブ志向」などの「ポスト近代型能力」の重要性は明らかに観察される。現代社会の中で望ましい「社会的地位」を獲得する上では、「近代型能力」だけでなく「ポスト近代型能力」を兼ね備えていることが不可欠になっているのである(第四章)。

本田由紀2005『多元化する能力と日本社会』

2. 卒業後追跡調査にみる「社会参加・自立」の困難

「高卒フリーター調査」

東京と宮城にあるフリーター輩出率が高い低ランクの高校公立普通科の卒業生にスポットをあて、継続調査を実施（2004 - 2008年）

高校3年時から5年間にわたって、進路先・就業先とそれを取り巻く状況の変化を追い続けエスノグラフィックなデータを収集し、困難な家庭環境・低い学力を抱えた卒業生たちがフリーター等になる契機や職場に対する理解、将来への展望、高校で学習しておきたかったことなどを分析

（古賀正義「高卒フリーターにとっての「職業的能力」とライフコースの構築」
本田由紀編2010『ポスト近代社会と「能力」』所収）

高校在学時



3年後



表1 卒業時と卒業生のその後の進路

(%) ((((%))))		東京A校 (55名)	東北B校(31名)
卒業時の進路 2005年3月	大学・短大	18.2	3.2
	専門学校	40.0	12.9
	就職(正規)	21.8	74.2
	フリーター	12.7	9.7
		A校(35名)	B校(20名)
第1次追跡調査 時の進路状況 2006年9月	大学・短大	22.9	5.0
	専門学校	42.9	20.0
	就職(正規)	11.4	45.0
	フリーター	20.0	15.0
		A校(23名)	B校(11名)
第2次追跡調査 時の進路状況 2007年9月	大学・短大	26.1	0.0
	専門学校	17.4	0.0
	就職(正規)	21.7	54.5
	フリーター	34.8	27.3
		A校(30名)	B校(10名)
第3次追跡調査 時の進路状況 2008年11月	大学・短大	20.0	0.0
	専門学校	6.7	0.0
	就職(正規)	23.3	60.0
	フリーター	43.3	40.0

(注) アンケートへの本人の記入に基づく分類、「未定・その他」の%を除いて表示。追跡調査時では、回収数が毎回変わっている。

表2 3次追跡調査時、フリーター層(13名)の進路先の経緯

Aくん(男):石油会社正社員・スタンド勤務を退職 同じガソリンスタンド、アルバイト プリンター修理・バイト 自動車販売・正社員 生協・パート社員
Bくん(男):音響専門学校 車両点検・正社員 ニート(無職)状態 各種アル バイト 郵便局・契約社員
Cさん(女):病院勤務・「准看」扱い、看護専門学校にも通学 准看護婦・パート雇用、 正看の専門学校にも通学、夜間・休日は別な医療機関でアルバイト
Dさん(女):保育専門学校 学童保育・嘱託扱いの指導員
Eさん(女):介護福祉士の専門学校 介護有限会社・嘱託 福祉・派遣会社の契 約社員
Fさん(女):ドッグトレーナーの専門学校 ペットショップ店員・契約社員
Gさん(女):犬のトリマーの専門学校 動物病院・正社員 派遣会社 ペット ショップ・パート
Hさん(女):スーパー・食肉販売部門の契約社員 歯科医院・アルバイト 遊園地・ア ルバイト
Iさん(女):アパレル店舗・契約社員 ゲームセンター勤務 アパレル店舗・契 約社員
Jさん(女):調理製菓専門学校 居酒屋・バイト 弁当屋・バイト
Kさん(女):調理専門学校 調理師・アルバイト
Lさん(女):美容・ヘアメイク専門学校 食肉販売・アルバイト
Mさん(女):美容院見習い・アルバイト 同棲・妊娠・「できちゃった結婚」=アルバイト離 転職

事例1 美容師・見習いからの離職、派遣社員 フリーター Mさん(東京)

Aさんは、現在アルバイトで働く1児の母である。卒業時、資格を取りヘアメイクの学べる仕事をと考えて、美容院に就職した。

高校時も困窮した父子家庭の家事を担い、欠席が多く、よい就職先を推薦してもらえなかった。

しかし、就職後数か月もたたないうちに、早朝から来て15時間勤務を越える過重な見習いの職場で体調を壊し、離職することになる。

その後、仕方なく派遣社員となり、弁当製造の工場で外国人労働者に交じって働くが、ここもつらく離職。

時々Mixi によるクラブの客寄せなどアルバイトでつないでいるうちに、彼氏と同棲し、「できちゃった結婚」をした。

< 卒業後2年目のインタビュー >

調査者： 最初の就職試験に落ちてしまって、それで？

Mさん： 先生と話してる時に、美容室があるよって。入って5年後に、ヘアメイク教えてくれるって、事だったんで。父にばかり負担かけてるの、いやだったから。とりあえず「早く自立したい」と。・・・厳しいのはわかってたんですよ。知り合いにもいるんで。入れたところが、たまたま有限会社だった。あとに、父が怒ったんですけど、労働基準法違反はフツーにしてるんですよ。・・・朝早くから出勤して。閉店の後も練習があって。先輩たちの配慮というか、夜遅くまで残されて。残ってやらないと、次の日、無視をされてしまうとか。サポートに入ってもやらせてもらえないとか。・・・人手の足りなくなったチェーン店に、配属されるような感じで。お店が固定じゃないんですよ、店員も。環境に慣れるヒマもなくて。・・・同期のまとめ役になって。不祥事がいろいろあるじゃないですか。社長直々に私へピンポイントにくるんで。常に、きてたんで。もう限界にきちゃったのと。新人だけはもう何にもすることないのに立っていて。立っているだけじゃ怒られてしまっっていう(悪循環です)。・・・先輩に聞いたところによる、いちばん評判の悪いところに入ったらしいですよ。辞めてから聞いちゃったんですけど。

調査者:同じときに入った人って何人くらいいたの？

Mさん:11人ですね。パタパタ辞めちゃって。そこは中卒者も雇っていて、その子が一番最初に辞めて。地方から出てきた寮生で。元々地元でほんとに美容師になりたいっていう。プライドがすごい高い子たちで。辞めると新しい人入れてみたいに。グルグル。…私の高校の先輩がすごい頑張っていたらしくて、それで(高校に)求人が入ってきてる。アルバイト情報誌にも載ってたんで。・
…後輩が行くって聞いたんで、とめて。高校のときに付き合ってた彼氏の友だちですし。あのバイクとか車とかのチームをやってた。ほんとに、辞める直前ですね、「辞めます」って言ったら、ああそうですかっていう感じなんですよ。もうこの会社は緩いんだかなんだか分からないんですけど。辞める、2、3日前ですかね、もう限界来て、大泣きしたんですよ。…

調査者:いまは、派遣会社の後には…？

Mさん:クラブのイベントプロデュースの方で、仕事してます。mixiでちょっと書くだけですごい人数集まる。広告やフライヤー載せたりすると。…音楽が好きですし。

事例2 情報処理専門学校に在籍した、アルバイト 隠れニートの Xくん(東京)

情報処理の専門学校に進学した男子卒業生は、現在も修了に至れぬまま在籍中である。とりたてて、アルバイトをするでもなく、かといって日々通学するでもない。「隠れニート」である。

高校時はほとんど欠席なく通学したが、成績は大変悪かった。企業に勤める父とパートの母。兄は大学生である。

コミックマーケットをはじめとするオタクの世界への関心は強く、生き生きとネットワークの世界について話す。話し相手の知識や関心にはある意味でお構いなしである。

働くことへの実感はほとんどなく、そのモチベーションも低く、アルバイトの職場の理不尽さを語っている。反面、もっと学習したいから専門学校を留年したとも説明している。

< 卒業後2年目のインタビュー >

調査者: うん、食事のときは話す、ん::それが終わると、もう::自分の部屋へわりとひきこもちゃう入っちゃう

Xくん: うあ:, はい.

調査者: う::ん、お兄ちゃんとは話すの?

Xくん: まあ:: あ::にとは:: まあ::とりあえず、趣味で合う部分とか::あと::は:: あ::と、十::数日であるイベントのこととかで、話す:こ:と:は [へへへ]

調査者: [へへへ]

Xくん: 確か8月:十::いちとか、そこらへんにあるイベント::

調査者: 8月11日のイベント? 何それ

Xくん: え::と、コミックマーケット:トです フフフ

(中略)

Xくん: ペンネームはそれで、サークル、サークル、ちゃんとしたそれ《ネットの友人たちとの「オフ会の集まり」をさす》で、「ツキシマ××」っていう名前で:: コミケとかで《自分の作品を》出してますから::

調査者: あ:: すごいねえ、コミケ市場の中に完全に入ってるね、

Xくん: ええ

調査者: すごいねえ、何の話しのために来たか、わからなくなっちゃった

Xくん: たぶん コミケの話

調査者: コミケ? フ そうじゃないんだよ:: 進路の話にきたのに。

Xくん: えと, 無駄に怒るって, 感じで[す

調査者: [あ:: 無駄にね。何して怒られた?

Xくん: え、なんか、ふつう::にやってんのに::だらだらやるなとか

調査者: だら[だら

Xくん: [そんな風にやるならとっとと帰れとか言われました[ね::

調査者: [それも厳しい それでも, 結局は::それでも::20日間? これは?

Xくん: 20日間《アルバイトした》.

《以下, 他のアルバイト経験が10分間ほど語られる. 中略》

Xくん: んー. 自分に合わないってのもありますけ[ど::

調査者: [うーん

Xくん: 合わなくても, とにかく, そ:れ:で進んで. とにかく, 最後まで 自分がいやでも. 最後まで やってみるっていうのは, さすがにちょっときついな::というのがありますから.

(中略)

Xくん: まあとりあえず, 卒業しなくちゃいけない, というのもありますから

調査者: [うん

Xくん: [少しずつ::ですね, 今は, うん.

調査者: 今はね

Xくん: はい

調査者: 少しずつ:: 急に, 堅実になってきた 八八八

調査事例からわかること

フリーターは概ね3つの要素の相互関係から生み出されている。第1は、本人の就業機会へのアクセス可能性の差異である。第2は、単なる資格志向ではなく、学校や職場などの教育によって獲得される(きわめて広義の意味での)「職業を支える能力」の差異である。最後に、現実的な就業へ向かう期待や意欲、いわゆるエクスペクテーションの相違である。……問題はこうしたフリーターを道徳的に非難することでもなければ、彼らのアイデンティティの支え方を手放しで称賛することでもなからう。この制約された構造の中で、教育格差の結果からフリーターとして不利益をこうむりやすい層に、その就労経験を活かして「職業的能力」の向上を図りつつ、新たな就業機会への参入を待てる「溜め」を形成していく支援の方法論(「ケイパビリティ」=能力によって活動を広がられる範囲・可能性)を構築していくことだと思われる。

(「高卒フリーターにとっての職業的能力とライフコースの構築」から)

結果の解釈1 (詳細、配布資料)

軽い接客 / 重い接客

Aくん = 高卒後、石油会社正社員 1年で離転職 自動車会社営業 生協配送係(非正規社員)

生協の御用聞きのように、自分で判断して、ごく簡単な会話をする時には、接客のスキルは軽い(対応可能)

自動車の販売のように、売り込みのテクニックを考えて購入層に勧誘する時には、接客スキルは重い

結果の解釈2 (詳細、配布資料)

絶えざる資格志向

Hさん = 高卒後、ミートショップ勤務(非正規社員)
3年で離転職 売店販売 歯科助手(非正規社員)

ヘルニアの発症により、スーパーでの勤務を断念
(慣れ親しんだ仕事)

資格取得のために、通信教育などを受講しつつも、
仕事がないことを実感(資格取得 = 有利な仕事イメージ)

結果の解釈3 (詳細、配布資料)

職場の経験知

Cさん = 高卒後、准看護婦をめざして病院勤務 & 看護学校 2年で取得し、継続(しかし、非正規職員)

看護に関わる高齢者からの信頼(承認される仕事)
「ボケボケで超かわいい」と表現

臨床経験の不足を実感して、補う努力の必要を痛感
(やりながら覚えるというプラグマティックなイメージ)

問題の「個人化」の限界

失敗や問題を個人の責任や努力の不足にのみ帰そうとし、それらを取り巻く社会的条件や状況的制約を軽視する理解のことを「問題の個人化」という。

政治学者ベックが提起したものである。彼によれば、国家や社会組織、家族集団など人間を取り巻く公的あるいは私的社会的伝統的な存在価値が低下することによって、個人の選択やニーズが人間の生き方の中心を占める状態が生じてくるという。いいかえれば、個人の自己理解や自己決定が個人を取り巻く状況を規定していくと信じる態度が強まるという

古賀正義2006「問題の個人化を越えて」『刑政』117巻

教育指導(相談)の問題と一口にいても、実際をみれば、非行から不登校あるいは学力低下まで幅広く、現場で「問題」として何をどのように理解すべきか容易に一義的に決められるものではない。そうでありながら、指導の問題には特定の原因があり、それに応じた特定の対処法があるはずだという信念が、多くの人に根強くある。

一言で言えば、「原因 - 処方」の図式が強く信じられている。そのため、指導する者個人が悪いという理解は、指導対象となる問題を抱えた生徒が個々別々になればなるほど、ますますあてはめやすい理解の図式になる。

翻って、これと同じ理解の仕方が、問題を抱えた子ども自身にもあてはまる。「自分が悪い」という言い方だ。例えば「自分は意志が弱かった」、「すごく自分勝手だった」、「自分に責任がある」これらは、問題を抱える子どもから頻繁に聞かれた語りである。もちろん贖罪感が必要なのだが、問題を解消するのではなく、問題を引き受け意欲を喪失する姿勢が、「個人化」の視点には潜んでいる。

2事例から見える

「社会的排除」に向かう条件

所得

雇用 = 社会の鍵となる活動への参加の有無

参政

+

「支援」 ソーシャル・インタラクション

サポート可能な人、その知識・認識の欠如

(対人関係、人生の意義などの保持も含めて)

2事例のような若者の 「社会的包摂」のために

- 1) 人間としての権利を尊重するという基本的な立場
- 2) 動員可能なさまざまな社会資源を提供・開発し、獲得する手ごたえをえること
- 3) 社会的絆を回復させることによって、個人を周辺から中心へ移行させること
- 4) 社会参画しうる自立した主体となることができるような教育・支援

3. 「市民性教育」のカリキュラム化と評価の試行

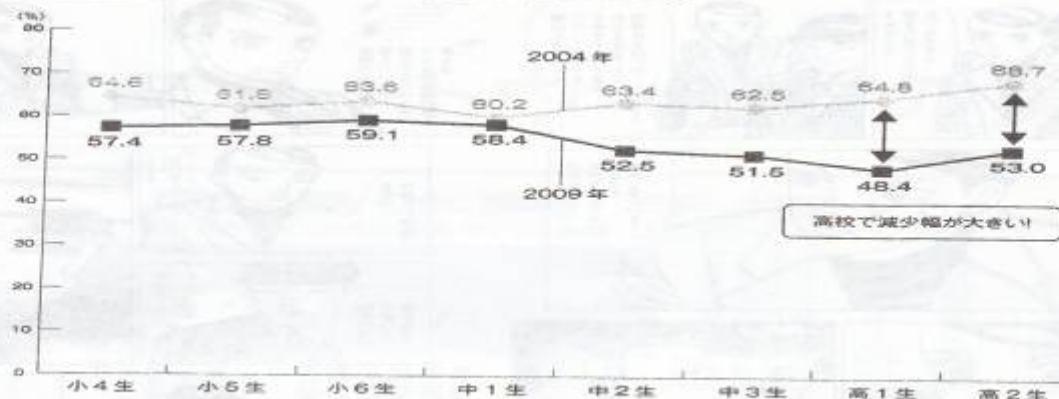
排除型社会を若者が生き抜くために、「総合的な学習の時間」などを改編して、これまでのキャリア教育の実績などを加えながら、高校教育段階で市民性育成教育をカリキュラム化して導入することはできないか？ 若者に「溜め」の力がつく教育が必要では？

「職業的な教育」をより広くとらえて、「職業的な世界や地域社会を生き抜ける市民的な能力(市民教養)」の実践的な育成が、高校段階だからこそ必要ではないか？ 例えば、先の事例でみた労働・給与・納税や場の人間関係などを理解する機会、多くの社会人と接する体験の機会の提供が、いま高校以外にありうるだろうか？

とりわけ、ハイパーメリトクラシー的な能力を家庭的に供給しにくい「中堅校以下」の最も数多い高校群、肥大化した「普通科校」では重要な課題なのではないか？

「なりたい仕事がない」生徒ほど大学進学を希望 教育モラトリアムの拡大

図4-2-7 なりたい職業はあるか（学年別、経年比較）



注) なりたい職業が「ある」と回答した%。

このように、小学生の「なりたい職業」が思いのほか定着しており、「なりたい職業がない」という子どもが三人に一人もいるという現状はいつた何の意味するのだろうか。

自己教育の目標としての「なりたい職業」

表4-2-3 なりたい職業の有無（高校生、高校偏差値層別・性別、経年比較）

	進学校				中堅校				進路多様校			
	男子		女子		男子		女子		男子		女子	
	2004年 (1,209名)	2009年 (1,569名)	2004年 (1,177名)	2009年 (1,404名)	2004年 (1,247名)	2009年 (1,139名)	2004年 (1,102名)	2009年 (1,019名)	2004年 (915名)	2009年 (589名)	2004年 (574名)	2009年 (586名)
ある	59.8	44.8	72.3	53.8	61.5	44.6	73.4	66.7	63.1	39.2	74.6	54.9
ない	38.1	53.2	26.3	44.1	35.2	53.7	24.8	31.7	35.3	56.6	22.8	40.8
割合・率	2.1	2.2	1.4	2.1	3.3	1.7	1.8	1.6	1.6	4.2	2.6	4.3

表4-2-4 なりたい職業の有無別にみた希望する進学段階（高校生、経年比較）

	2004年		2009年	
	なりたい職業ある (4,042名)	なりたい職業ない (1,877名)	なりたい職業ある (3,199名)	なりたい職業ない (2,072名)
高校まで	5.8	5.4	5.0	5.9
専門学校・各種学校まで	16.9	6.4	12.4	4.5
短期大学まで	3.7	2.1	3.3	1.2
大学（四年制）まで	51.3	59.6	53.9	62.6
大学院（六年制大学を含む）まで	16.0	9.3	17.8	10.5
その他	0.4	0.2	1.0	0.2
まだ決めていない	5.2	16.5	5.9	14.3
無回答・不明	0.6	0.5	0.8	0.8

ベネッセ「子ども生活実態基本調査」(2009) の結果から

1) 生徒は、雇用構造の現実を見、キャリア教育による自己理解も進む今日、簡単に「なりたい仕事がある」とはいえないという結果。

2) 大学進学による進路選択の先送り・保険の獲得(東京都は60%が大学進学)は仕方ない方向か。イギリスのギャップイヤーのような「悩める時間(職業選好の時期)」をどこで提供するかが問われている。

市民性教育(シチズンシップ教育)

目的

「子どもたちが、参加型民主主義を理解・実践するために必要な知識・スキル・価値観を身につけ、行動的な市民となること

実践課題

「コミュニティとの関わり」の育成

「社会的・倫理的責任」の育成

「ポリティカル・リテラシー」の育成

(『学校における、シチズンシップと民主主義教育のための教育:シチズンシップについての諮問委員会最終答申』(1998))

事例1：品川区の「市民科」のねらい

教養豊で品格のある人間を育てることを目指し、児童・生徒一人一人が自らのあり方や生き方を自覚し、生きる筋道を見付けながら自らの人生観を構築するための基礎となる資質や能力を育みます。そのため、市民科の学習では、教師が指導性を発揮し、「我的世界」を生きる力（自分の人生を自分の責任でしっかりと生きていく力）と「我々の世界」を生きる力（世間、世の中でしっかりと生きていく力）の両方をバランスよく身に付けさせる必要があります。実施にあたっては、人格形成上、内容や方法面で関連がありながらも別々に行われていた道徳の時間、特別活動（学級活動）、総合的な学習の時間を統合し、その理念は大切にしつつもより実学的な内容を盛り込んだ単元で構成する学習となります。



事例2: 藤原和博氏「よのなか科」のネットワーク型実践

HOME

- 新着情報
- 交流相手校
- 授業・イベント
スケジュール
- 授業実践プラン策
- 授業実践報告
- Web研修用ビデオ
- ワークショップセミナー
開催情報
- ワークショップセミナー
開催報告
- 実践校の取組み紹介
- ネットワーク型授業
分布状況
- マスコミ掲載情報
- リンク集

セミナー！
「学校マネジメント
とは何か？」*無料*

ネットワーク型
授業とは？

和府中学校流儀の
学校支援本部のつくり方

● 全国科ネット
「学校支援地域本部
に関すること」

全国「よのなか」科ネットワーク
ネットワーク型授業推進
サポート委員会 事務局
株式会社キヤリアリンク

Tel: 06-6251-6004
FAX: 06-6251-6606
E-mail: network@lab.
wtp.06.jp
〒542-0083
大阪府大阪市中央区東心斎橋1-14-15

授業実践報告

授業実践報告 詳細

【藤原氏】「裁判員制度をスタートするのなら、こんな法教育が必要だ！」

2009/06/26(金) 13:40 ~ 15:30

■授業のポイント

- 授業者
藤原和博
- ゲストティーチャー
橋下知事
吉田市長
- 場所
大阪府狭山市立南中学校 体育館
- 内容
橋下知事との初のコラボレーション授業。
全校生徒と学校サポーター参加による「模擬裁判」が行われます。
[よのなか]科ワークシート(少年法を考える(1)、少年法を考える(2))を独自の演出で、連続して行われます。

1) 当日の様子

- 全学年が体育館に集合。3年生のみグループごとにワークショップ形式で着席し、各グループには大人が2名ずつ加入。1、2年生はままとって体育館右側、3年生を左側に位置し、1、2年生と3年生の間、体育館中央にて授業は進行されました。
- 報道陣総勢約50名が、3年生の後ろ側から撮影。テレビ局をはじめ、さまざまなメディアが取材・撮影に。大阪府教委をはじめ、教育関係者の参加も50名ほどあり、注目度の高さがうかがえました。

2) 授業の様子

<ウォーミングアップ>

藤原氏が「よのなか」科のマナーを説明。

- 拍手の仕方
- 答えは1つではない →自分の考えを述べさせることが大事
- 大きめのつぶやきの練習 →他人がなんと言おうと関係ない

→知事と藤原氏は揃って登場し、その時点ですでに生徒たちのテンションは上がっていましたが、ざわつく生徒たちをうまく授業に誘導されていました。

<授業①>「少年法を考える(その1)」

※イギリスで実際に起こった犯罪を題材に、少年法について考えます。その事件とは、10歳の少年2人が、2歳の少年を連れ去った争論に殺してしまうというもの。詳しくは、[よのなか]科ワークシート「政治・法権編」をご参照ください。

1. 事件の概要を知る

- 事件の概要を藤原氏が読み上げられた後、検察官の最終弁論を吉田市長が、弁護士の抗弁を橋下知事がそれぞれ読み上げられました。
- 吉田市長に比べると、さすがに元本職だけあって、知事の弁護人役は上手く、生徒たちは聞き入っていました。順番が後だったことも影響してか、以降の質問に対する生徒の回答は、やや弁護寄りだったように思われます。

2. 陪審員となって、少年2人の行動や意図について考える

- 悪いことだと判断できたかという問に対しての生徒たちの回答は、「判断できた」が約2割、「できなかった」が約8割。また、「殺す意図があったか」という問に対しての生徒たちの回答は、「意図があった」が約1割、「なかった」が約9割。

3. 少年2人の刑罰の確定プロセスについて確認する

- 事件に関わったか否か「判断力の有無」故意による殺人か否かによって刑罰が変わってくることを確認した上で、知事から、日本の少年法について説明がありました。日本では保護(更正)の考え方が強く、14歳までは善悪の判断ができないとされていることを伝え、どうして日本では14歳までで、イギリスでは10歳までなのかをグループで考えること

事例3：宮城県の試行する「志教育」



【インターンシップ】
実際の職場の中に入り、自己の適性を生かす進路を考える。

【毎日の授業】
学習と将来の職業とのかかわりを理解し、進んで学習に取り組む。

【農林漁業体験】
体験活動を通して職業について考え、よりよい生き方を求める。

【家庭での手伝い】
家庭や身近な集団で自己の役割を果たす。

【仕事での役割を果たす】

人と人の理解し、

自己の考えを。

【地域で活躍する】

高校における「総合的学習の時間」の 主な反省点

- 1) 課題が網羅的で、何をやる授業なのかがはっきりしなかった。そのため、進路指導の時間などに転用されやすかった。
- 2) 評価が明確におこなわれないため、生徒のモチベーションが上がりにくかった。AOなどの入試資料にもあまり活用されていない。
- 3) 社会で生活するための知識やマナーを習得し、他者とかかわれる自己を構築するために、外部のNP0などが構築した実践的ノウハウが充分活かされてこなかった。

もちろん市民性育成の教育の基盤は、
基礎学力の維持・向上

日本の高校教育は、コストパフォーマンス
(対GDP費の教育予算)からみれば
世界のお手本といえる

そこには、職場の経験知として教育を大切にする
エトスが存在していた。それを維持したうえで、新たな
活動の整理・統合に流れに

市民性育成の教育を「教科化」していきたい
教師の教科アイデンティティと両立できる領域にしたい

社会的スキルの学習

これに関連して、コミュニケーション能力等の形成は、他方で、いじめ・不登校対策などとして、心理学的なピア・サポートを中心としたさまざまなスキル学習としても成立している。

例えば、グループエンカウンター、SST、アサーショントレーニングなどのプログラム型学習の実践

コミュニケーション・スキル (アメリカ)

表1-2 Sedgehill Schoolの第10学年におけるキャリア教育

	秋学期	春学期	夏学期
1	学校から労働へ	健康と安全について (ワークシートの活動)	勤労体験の評価
2	キー・スキルと目標設定	健康と安全について (ビデオ鑑賞と事件報告)	給与袋について
3	キー・スキル	健康と安全について (試験)	税金について (ビデオ鑑賞と議論)
4	コミュニケーション・スキル	機会均等	国民保険について (ビデオ鑑賞)
5	コミュニケーション・スキルの実践	勤労体験(work experience)の予測	コネクションズ
6	コミュニケーション・スキル	勤労体験 (活動記録とビデオ)	
7	積極的な態度の育成		

事例1：さいたま市人間関係プログラム



コミュニケーションが友人関係を広げ、
子どもたちの笑顔を育みます。



さいたま市では、教育特区の認定を受け、児童生徒のコミュニケーション能力の育成と、自己開示・自己表現が安心して行える信頼感に満ちた学級作りを目指して、「人間関係プログラム」の授業を実施しています。

事例2：T少年院のSST

SST = ソーシャルスキルトレーニングのこと。認知行動療法の1つに位置づけられる新しい改善方法で、対人関係を中心とする社会生活技能のほか、自己管理技能の育成にも効果。

【観察場面： 実演(1) = ロールプレイの事例】

社長： D君、F君から聞いたんだが、住所を写した紙を持ってるそうじゃないか。それは何に使ってるの。(中略)

夫人： 今は(個人情報管理が)厳しいからね。

社長： 肩持っちゃいかんよ。だめじゃないか。

夫人： わざとじゃないのね。分からなかったものね。

D： すみません。ありがとうございます。……

いや、自分のためになったので。ありがとうございました、先輩。これからも何かいろいろあったら、皆さん方もよろしく願います。

教官： はい、拍手。

(社長 = C少年、新聞配達員 = D少年、社長夫人 = E少年、先輩社員 = F少年)

社会体験学習

場を提供して、そこでの活動体験から臨機応変な
他者との関係づくりや協働的な態度などを学習す
る方法

例えば、ボランティア体験や職場体験、
冒険遊び場、居場所活動などいろいろな体験型
のプロジェクト学習が入ってくる

事例1：職場体験

学校から社会への移行をめぐる課題

- ① 就職・就業をめぐる環境の激変
 - ・雇用システムの変化
 - ・求職希望と求人希望との不適合の拡大
 - ・新規学卒者に対する求人状況の変動
- ② 若者自身の資質等をめぐる課題
 - ・勤労観、職業観の未熟さ
 - ・社会人・職業人としての基礎的資質
 - ・能力の低下
 - ・社会の一員としての意識の希薄さ

子どもたちの生活・意識の変容

- ① 子どもたちの成長・発達上の課題
 - ・身体的な早熟傾向に比して、精神的・社会的自立が遅れる傾向
 - ・働くことや生きることへの関心、意欲の低下
- ② 高学歴社会におけるモラトリアム傾向
 - ・職業について考えたり、職業の選択・決定を先送りにするモラトリアム傾向の高まり
 - ・進路意識や目的意識が希薄なまま進学・就職したりする者の増加

学校教育に求められている課題

- ① 「生きる力」の育成
 - ・確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の向上
 - ・自然体験、社会体験等の充実
 - ・発達に応じた指導の継続性と小・中・高の連携
- ② 社会人・職業人としての自立した社会の形成者の育成
 - ・学校の学習と社会とを関連付けた教育
 - ・生涯にわたって学び続ける意欲
 - ・社会人・職業人としての基礎的な資質・能力
 - ・家庭・地域と連携した教育

事例2：東京都・奉仕科の実践

平成19年度 都立高等学校における教科「奉仕」の実施状況について

別 紙

【教科「奉仕」の目標】
 奉仕に関する基礎的・基本的な知識を習得させ、活動の理念と意義を理解させるとともに、社会の求めに応じて活動し、社会の一員であること及び社会に役立つ喜びを体験的に学ぶことを通して、将来、社会に貢献できる資質を育成する。

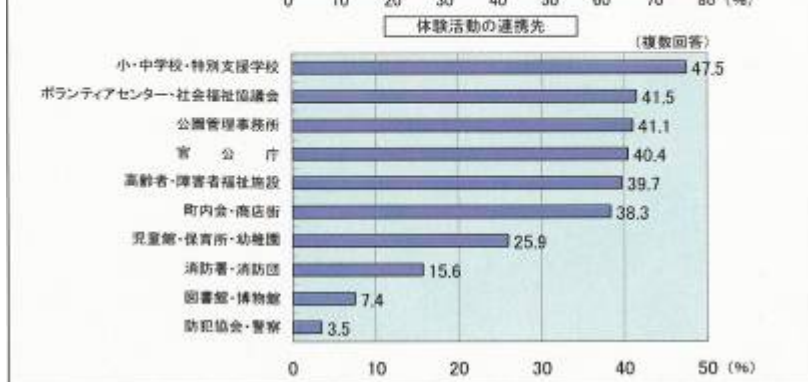
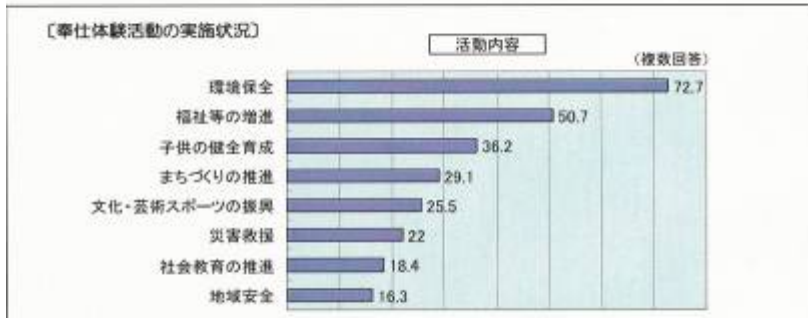
【教科「奉仕」の設置状況】

○ 都立高等学校全校、282課程のすべてで実施

○ 履修生徒数45,762人
 (全日制40,744人、定時制・通信制5,018人)

設置学生

左のグラフは設置学生の内訳を示しています。全日制が79%、定時制・通信制が21%です。右のグラフは学年別の設置学生数を示しています。1年生が18%、2年生が20%、3年生が18%、4年生が23%、5年生が19%です。



【本年度の主な成果】

- 奉仕に関する基礎的・基本的な知識の習得**
 - テキストを使用した授業で、「自分が何ができるかを考えることができた」「様々な奉仕体験活動があることが分かった。」(普通科・定) など
- 社会の一員としての自覚や規範意識の涵養**
 - 「一緒に活動した社会人を見て、働きながら社会貢献をするのはすごいと思った。」(普通科・全)
 - 「ゴミのゴミ捨てをしないことが最低のマナー、街をきれいにするためにすすんで清掃活動することはカッコいい。」(普通科・全) など
- 社会に役立つ喜びの体験**
 - 「ゴールしたマラソンランナーに荷物を渡すとき、「本当にありがとうございます」とランナーにお礼を言われ、とても感動した。」(総合学科・全) など
- 将来、社会に貢献できる資質の育成**
 - 生徒が自ら「これからもボランティアに参加したい」と申し出てきた。(普通科・全)
 - 東京消防庁災害時支援ボランティアに9割の生徒が認定を受け登録した。(工業科・全) など

奉仕体験活動後の生徒の自己評価

質問項目	肯定的評価
奉仕体験活動の意義や課題を理解できたか。	88.6%
地域や社会に様々な課題があることを理解できたか。	78.9%
地域や社会の一員である自覚をもてたか。	85.6%
あいさつ・言葉使いなど社会のマナーを身に付けて、活動できたか。	82.8%
今後、貢献活動を前向きに行おうという気持ちをもつようになったか。	85.0%

(平成19年度高等学校教育開発委員会調査生徒877名)

【教育支援コーディネーターの活用】

- 今年度派遣数** 136課程(全日制101課程、定時制・通信制35課程)
- 支援内容**
 - 地域の特性及び社会資源をいかした奉仕体験学習のコーディネート
 - 事前事後学習の補助や体験活動への助言(教科「奉仕」テキストの活用を含む)
- 学校の声**
 - 教育支援コーディネーターがかかわったことにより、教科「奉仕」の授業全体の流れを作ることができた。(普通科・定)
 - 校内の教員だけで計画・実施は困難と思われたが、教育支援コーディネーターの協力により、様々な体験活動を計画・展開することができた。(普通科・全)
- 教育支援コーディネーターの声**
 - 地域の方から「学校を支援したいけれども、どうすればよいか分からない」という声をよく聞くが、今回、そうした社会資源と学校とを結びつけることができた。

【今後の課題と解決策】

- **奉仕体験活動受入先との連携強化や新たな受入先の確保**
 - 学校と受入先とで活動内容や日程などの調整をすることが大変だった。(普通科・全)
 - 定時制課程の授業時間外で行う奉仕体験活動の受入先を見つけるのが困難だった。(普通科・定)
 - 教科「奉仕」連絡会の充実、教育支援コーディネーターの一層の活用
- **都民へのPR**
 - 教科「奉仕」の趣旨を都民に一層理解してもらい、奉仕体験活動の受入先を増やしたい。(普通科・全)
 - 「奉仕」推進フォーラムの実施、リーフレットの配布
- **指導方法・内容の検討と改善**
 - 効果的な指導事例をたくさん用意して、奉仕事前学習に役立てたい。(工業科・全)
 - 奉仕事後学習で行う、生徒の自己評価を充実するための教材等を提供して欲しい。(普通科・全)
 - どのような指導や奉仕体験活動に教育効果があるのかなど、他校の状況を知りたい。(普通科・全)
 - 各学校の指導の工夫や課題の集約及び教科「奉仕」運営委員会(仮称)による改善策の検討
 - 教科「奉仕」の教育効果に関する調査研究の実施、教科「奉仕」推進者養成研修(300名規模)の実施

従来からの「日本的なケアリングの教育」*
(ノディングス)の基盤に。それを高く評価して、
先の市民性育成の諸活動を加え、
「実践 = やってみること」に比重を置いた科目を明示する

質保証をするための評価と個人の意欲を醸成する評価を
念頭に、一定の評価も試みていく

* 生産・統制・支配・競争などの男性原理で構成されてきた教育に対抗する原理として、

「ケアリング(心を砕いて世話をすること)」の概念を重視

「世話」「養育」「福祉」「看護」などの「ケア」として表現される生活者の知性と倫理を中心に再構成する

文化内容を「モデリング」「対話」「実践」「信念の表明」などの方法で学ぶことを提唱